

秋の一日 寺山で勉強会

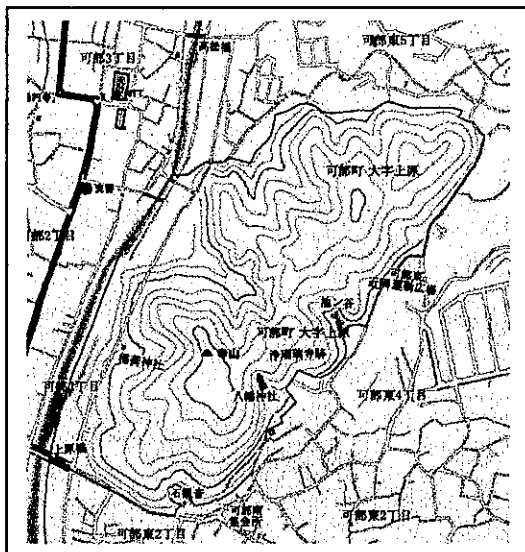
カラスの会では寺山の公園を取り沙汰されるようになってから、亀山公民館の高齢者大学を皮切りに模型の作成、勉強会、よがんす祭と住民の気持ちが取り入れられる土壌づくりを続けてきましたが、その一環として寺山勉会の第二弾が具体化されました。

今年8月下旬、カラスの代表友広さんは上原在住で寺山をこよなく愛し、研究しておられる山田保彦さんを訪ねました。そして寺山に対する私たちの思いを語り、「今後の行動を一緒にやりませんか。」と提案したところ、寺山を愛する山田さんのこと、快く応じてくださり、その手始めとして「寺山に登って実際に勉強しよう」ということになりました。勉強会当日の予定はおおよそ次のとおりです。

日 時 11月3日(祝) 午前10時～午後3時
 弁当と飲み物を用意のうえ、藪に耐えうる服装が必要です。

集合場所 可部東近隣運動広場(別図参照)
 駐車場は十分あります

コース 出発→池ノ谷 → 浄庵寺跡 → 寺山縦走(昼食) → 水晶谷 → 藤の棚大神 → 摩崖仏大石
 石観音 → 観音堂 → 八幡神社 → 帰着
 さあ皆さん、ハイキングのつもりで参加してみませんか。



三入の公民館で 映画とお話

カラスの映写グループ(新澤夫妻、上森、田中、和田木)は、三入公民館へ飛んでゆきました。10月14日三入公民館企画の「いきいき大学」で映写会を実施。内容は亀山公民館と同じ「大正時代の可部周辺のフィルムと舟大工、川口さんの記録」です。



教室へ入ると屋台からはコーヒーの香ばしい匂いが漂ってきます。

そうした雰囲気の中で授業は音楽で始まります。ここではカラスも生徒の仲間、田中先生の指導で「里の秋」の二部合唱を練習。二時間目が大正時代のフィルム映写、そして休

憩の時間がコーヒーのサービスでした。

三時間目は川口さんの記録、そして最後がカラスの活動やまちづくりへの思いやらを披露、まず新澤さんがカラスのボランティアに対する考えと今までにやってきたことを、田中さんは加藤修さんがマンホールのデザインを手がけたことを紹介しました。最後に和田木さんが今後の取り組みとして寺山を取り上げ、みんなで考えてみませんかと提案しました。

三入大学の皆さんは五感全部を使って興味を止めたいへん喜んでくださいました。映写会では懐かしいシーンに出会って、あちらこちらから歓声が上がり、コーヒータイムには長〜い行列ができ、私たちの話には殆どの方が身を乗り出して聞き入ってくれました。講座が終わって帰りがけに「カラスがどういうことをしよるんか不思議でしたが、ようよわかって安心しました。」と言い残された婦人もありました。

息の中で授業は音楽で始まります。ここではカラスも生徒の仲間、田中先生の指導で「里の秋」の二部合唱を練習。二時間目が大正時代のフィルム映写、そして休

どこから出るの?あのパワー にぎやかに”まちづくり横丁”開催

参加した18チームの皆さんはすごいパワーを発揮しました。みんなの表情はすばらしく、まちづくりの楽しさを肌で感じた人もあったでしょう。イベントの企画担当「可部カラスの会」はもちろん、どのチームも自分たちの特徴を発揮しながら場内至るところで情報交換のゲームが繰り広げられました。それらの表情を捕らえてみます。

広島弁主体の進行

10月9日12時、横丁開店のセレモニー開始です。横丁のコンセプトは「本音で語り、楽しく交流」で、その雰囲気をかもし出すためにもセレモニーはできるだけ自分たちがいつも使う言葉にし、引き金の役を務めた子供さんの「開会宣言」も広島弁、宣誓の友広さんもそうでした。司会は空想民族音楽サヤンの倫さん、アトラクションもサヤン。華やかに幕開けとなりました。

趣向を凝らしたブース

どの店もそれぞれ工夫を凝らしてブースを飾り、客集めに懸命です。そしてお客のほうも両替商で貰った模擬紙幣“まなびい”を手に、自分の一番ほしい情報を探してブースの間を右往左往。人生を占ってもらう人、お宝を探す人、

みんな目はキラキラ輝やいていました。

「可部カラスの会」もステージの前に屋台を置き、54号線に設置したマンホールと寺山の模型を飾り絵葉書や会報を販売しました。“まなびい”の売上は4位でした。



“屋根裏の会”ブースの前で、並べてある木のクラフトをじっと見つめる女の子が目につきました。そのクラフトは非売品、彼女はどうしても屋根裏のブースから離れたくないようでした。



まちづくり劇場も盛会

同じフロアで開かれた「まちづくり劇場」も沢山の人が集まりました。最初は場内アナウンスの音量不足から人の集まりが心配されましたが、すぐにセットした60席は満杯となり、出場チームの活動状況に見入っていました。ちなみに特別賞を獲得した“屋根裏の会”は劇場の発表によるものでした。

売上トップは“未来大学”

“まなびい”の獲得ゲームも熾烈を極め、売上上位3チームはつぎのとおりとなりました。

’98ひろしままちづくり未来大学	1125 まなびい
ひろしま人と樹の会	638 まなびい
もりメイト倶楽部 HIROSHIMA	512 まなびい

カラスのスケジュール

カラスの定例会

10月27日(水)

11月10日(水) 11月24日(水)

イベント等

11月 3日(祝)

寺山勉強会 午前10時から午後3時

可部東近隣運動広場集合

11月 6日(土)～7日(日)

可部公民館祭 可部小学校グラウンド

11月 6日(土)

三入中学校イベント

映写会実施予定

11月14日(日)

根の谷川水質検査・芋煮会

台湾へも義援金

このごろ世界中が異常ですね。想像を絶するような竜巻の頻発、トルコに続いて大地震が台湾までやってきた。「表現は適切でないかもしれんがトルコよりも台湾のほうに親近感が沸くよわ。」とは、あるメンバーの声。

そこで今回も知らん顔では申し訳ありません。会からの支出はトルコ同様一万円に有志の気持ちをプラス、10月4日NHK広島放送局へ付託しました。

お詫び

今月の「カラスの紹介」は休みます。紙面の関係でどうしても都合がつかないので今月号のみ休みます。あしからず。

可部カラスの会

第22号 99.11.15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

Tel(Fax)814-0162(寺本)

kabekarasu@ma8.seikyou.ne.jp(田中)

<http://ha8.seikyou.ne.jp/home/kabekarasu/>

秋の日和にカラス舞う

可部カラスの
奮戦記

寺山の史跡探索

11月3日、快晴の寺山運動公園に集まった「寺山を勉強する会」の総勢19名は、カラスのかけ声で氣勢をあげて出発。池ノ谷（溜池）から浄庵寺跡、寺山城址へ。尾根を南下して寺山頂上へ向かう予定が、先日の台風によって行く手を阻まれてやむを得ず八幡神社へ急降下です。八幡さんのご神体を拝顔した後観音堂ではご本尊や、田中さんのおじいさんが寄進された観音像も拝見できて、全員感無量の面持ちでした。



昼食のあと梵鐘のできる工程や、広島県の砂鉄などの説明を受けて午後のコース「耳観音（石観音）」へ。富士山の姿に似た石に観音さんの顔が、隣には地藏さんが座ってござっしゃる。「道のほとりにこがあな立派なものがあるたア知らんかったあ」。

というのがみんなの気持ちでした。最後は「舟ヶ谷（藤の棚）稲荷さん」、ここには摩崖仏大石、舟ヶ谷（やっどご免の）観音も並んでいるが、これらの言い伝えは「可部のまちかど」に譲るとして、出発点へ戻って山田さんの挨拶は「今日はカラスのおかげで、梵鐘やら砂鉄の勉強ができてまたひとつ偉うなりました」です。

これでまた、カラスの活動目標ができました。最後に訪れた稲荷さんの周りには雑草が生い茂っており、「少し清掃をしてみたら…」の声も出ています。

可部公民館祭

寺山探索の感激が覚めやらぬ11月7日、可部カラスは「可部公民館まつり」にも寺山をテーマに店を出しました。

テントの中央に寺山の模型、右側のボードに寺山に寄せる想いを書き込む“ご意見^{ばん}板”、左側には寺山の歴史（可部おもしろクイズのヒント）を配しての開店です。寺山の模型を覗き込むお客さんに場所の説明、「寺山のことは、よう知らん」という人に対してヒントのボードへ案内と、説明担当もてんこ舞いでした。

クイズも珍問、奇問、難問がズラリ32点で、解答者の皆さん「頭の体操」になった模様でした。応募数は65件、



その中で全問正解が6人も出たのはすばらしいとこでした。クイズ結果発表の午後2時半、テントの前は発表を待つ人でギッシリです。

賞品はもちろん地元の清酒と醤油、

当選者の発表に喜びとため息とが交錯。それぞれ賞品を配ってカラスの店は閉店。それは長く続いた「可部公民館まつり」のフィナーレでもありました。

三入中で映写会

最近カラスが三入へ飛んで行くことが多くなりました。公民館活動のサポートが2件、今度は中学校のサポートです。三入中学校では昨年からの地元の人たちとの交流を図る“ふれあいフェスタ”や“まちの清掃”を実施していますが、そのフェスタに招かれて「大正時代の可部周辺」ビデオを見てもらうんです。今までの映像を約20分に短縮しましたが、世代の異なる時代の町並みや子供たちの映像は、中学生の皆さんには時代の背景まで理解しにくかったと思われませんが、最後まで一生懸命見てくれました。

実は映写会のスタートでプロジェクターの結露?か、映像が不鮮明となり、機器を取り替えてやり直すのに約5分、生徒の皆さんはじっと待ってくれたんです。

校長室でお茶をいただきながら三木さんは「トラブルが発生しても、静かに待ってくれた生徒さんの態度に感動しました」。とのコメントを残しました。駐車場を出るとき、裏のサクラの花が微笑んでいました。

川はキレイだ 芋煮はうまい

秋季の恒例行事「根の谷川水質検査」を11月14日(日)に行いました。当日は快晴、ピリッとした空気の8時半、上流組4名、下流組6名は携帯電話で連絡をとりつつ作業開始です。「水がきれいでした。」とは上流組レポーターの新沢さん。「カニも採れるんですね。カニ籠がありましたよ」。カニ籠は下流組も同じです。「カニは秋がうまいんかね」、「わしの記憶では、おふくろの実家から唐米袋いっぱいのカニを「町便さん」が持ってきてくれよったが、春のほうはうまかったがのオ」。下流組の会話は、カニ籠と「かわせみ」を発見したときでした。

「あそこに湧水があるけえ水温を計ろうやあ」と加納さん。「湧水がきれいなら酒がつくれるかの?」



はWさん。川藻があってコイが産卵する場所だそうです。

排水口のポイントでは悪臭もありましたが、上流、下流とも魚が

群れ、野鳥が舞い遊ぶ。キレイな根の谷川を満喫して、11時に所定の作業を終了。ホンネの“芋煮会”にとりかかります。

芋煮会は“ひふみ会館”。芋が煮えるまでに「まちづくり横丁」のビデオを見ることに。担当の「これ以上カットできん」シーンが約2時間。その間に芋も煮え、酒

もまわって話がはずみ、気がつけば5時前。意義のある一日でした。

カラスのスケジュール

カラスの定例会

11月24日は公民館の休刊日なので中止

12月8日(水) 12月22日(水)

カラスのイベント等

12月5日(日) 11:30~

NTT可部OB会

大正時代の可部周辺のビデオ上映

12月10日(金) 10:00~12:00

可部公民館 ごきげん倶楽部

大正時代の可部周辺のビデオ上映

あるといいな パークモビリティ

楽々園広電ストアの一角に事務所を構えるタウンモビリティ“らく

らく〇オフィス”が10月23日オープン。佐伯区で街づくり活動をしている

“楽”が、お



年寄りや体の不自由な人たちの電動スクーターに乗って街を移動することのサポートを地域の人たちと協力して実現したもので、使用料は無料。そのうえ市民グループでの運営は全国でも初の試みです。

もちろん実現するには地元の皆さんの絶大なご協力があり、商店街からも電動スクーターの寄贈をいただきました。これで広電ストアと付近の商店街を気楽にスクーターで巡ることができます。

開会セレモニーには、区長さん、町内会長さん、商店街の皆さん等、うれしそうな顔が。もちろんボランティアの皆さんもお年よりも。

ではこのシステムを可部に導入するとどうでしょう。現状では道路の段差、交通量から無理ですが、寺山公園が完成した暁に活用できも。名づけて「パークモビリティ」。

お年寄りや、体の不自由な方たちが、気軽に公園を散策できるように夢を広げてみたいですね。

カラスの紹介(6)

田中 加代子さん

可部カラスへは夫婦二人で参加しています。二十数年前は、同じ山岳会で、そして今、可部カラスという同じフィールドで楽しくかかわらせていただいています。

「妻の機嫌がよいのは人生一番の宝」と自分勝手な言い分で山登り、地域活動へと飛びまわっているのですが……。

十三年前、可部親子劇場の発足に携わり、初代の運営委員長をつとめました。その関係で平成八年「特色ある町づくり」という行政の呼びかけに出会い、今ではすっかりカラスにはまってしまったというわけです。

カラスは我が家へ笑いを運んでくれました。この年で涙を流し腹を抱えて笑いあえる仲間がいるなんてとっても幸せです。

可部カラスの会

第23号 99.12.15.

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

Tel(Fax)814-0162(寺本)

kabekarasu@ma8.seikyou.ne.jp(田中)

<http://ha8.seikyou.ne.jp/home/kabekarasu/>

一緒に活動しようやあ

可部カラスの会代表 友広 大造

可部町づくりの会が発足して来年で早くも5年目をむかえ、われわれの活動が可部の人に少しずつ理解していただき、徐々に認知され、うれしいと同時に責任の重さも感じています。

この会は不思議なパワーを持っています。行事をやるとき大筋を決めると後は何も言わないでも上手くできる。そして自分の特技が出てくるし、みんなでカバーし非常にスムーズに行きます。

一口で言うとアメンバー集団です。従って会則なし、会費もなし、入会退会自由、全くフリーで誰一人として、不平不満の言葉が出たことがない。メンバーの一人一人がプラス思考、しかも受けとめるハートがやわらかくて大きく、奥が深いのではないかと思いま

不思議なことに、そのような人の中で活動したり一杯飲んだりすると、自分の心が洗われるようで楽しく、会合の日とかイベントをやる時は朝早く目が覚め、わくわくします。ゴルフをやる人は経験があると思いますが、明日はゴルフというときは、夜寝られないし、朝早く目が覚めてわくわくしたものです。そのときのような心境で今は活動をさせていただいています。

カラスの会を通じて、人の出会いがたくさんありますがこの活動を通じて私自身の人としての幅が広がるような気がしています。

この会に入って一回飲んだら、忘れられん、離れられん友達になります。一緒に活動しましょう。

会えてよかった昔の私

70年タイムスリップ 桐原さん

1999年仕事納めは、可部公民館の「ごきげん倶楽部」での映写会です。ここで特筆すべきことは、現在79歳の桐原豊子さんが7才の自分に会うため、三人の姉妹と一緒に来られたことです。

参加者は30名、大正～昭和初期の可部がどんな風に映し出されるのか期待も大きい模様です。

いきなり可部駅に到着した軽便鉄道、駅も鮮やかで、懐かしそうな声があがります。次々に展開される街の佇まい、女性には当時の着物も興味の一つだったようです。

そして圧巻は“青い目の人形を迎へて”に桐原さんたちが出演するシーン。懸命に演技する三人の少女に大きな拍手が沸きました。

映写を終えて、トークの時間。新澤さんは“カラスの活動概念”を、三木さんは“寺山公園に向けてともに行動”を、樋野村さんは町の記録をカメラで残そうと訴え、皆さんの共感を得ました。



「今までよう残してくれちゃったことへの感謝と、それを見られるようにしてくれちゃったみなさんの努力は大変じゃったねえ」と、ねぎらいの言葉をいただいて、ごきげんな気持ちで「ごきげん倶楽部」を終了しました。

一年間の「カラスの足跡」

- ◎ 大正末期の可部周辺のビデオ
五月一九・三十日 可部学区集会所
- 六月一七日 亀山公民館
- 六月一七日 文教女子大合同発表会
- 八月一七日 三入公民館ふれあいフェスタ
- 十月一四日 三入公民館
- 十一月五日 N T T可部O B会
- 十二月十日 可部公民館
- ◎ 交流会
一月一九・三〇日 まちづくり全国大会
- 三月六日 青崎公民館わが街自慢土隊
- 三月一四日 西区コミュニティ交流会
- 三月二八日 可部線存続大行進
- 五月二九日 屋根裏の会
- 八月二一日 可部よがんす祭り
- 十月九日 生涯学習まちづくり横丁
- 十一月九日 可部公民館まつり
- ◎ 町探検案内
三月六日 東京農業大学
- 三月一三日 青崎公民館わが街自慢土隊
- ◎ 出前授業
二月五日 亀山南小学校六年生
- 二月三日 亀山南小学校三年生
- 十一月六日 三入中学校
- ◎ 訪問調査
三月二日 尾道山波民族資料館
- ◎ 継続活動
九月二二日 根の谷川クリーン作戦
- 十一月一四日 根の谷川水質調査
- 八月一一日 寺山勉強会
- 十一月二日 //

さあ仕事はじめだよ



2000年の仕事始めは、新築なった“安佐北区総合福祉センター”落成記念イベントの協賛です。名づけて“可部を唄おう”。1月9日(日) 10時～12時は『可部カラス』にお任せタイム。ホールを目いっぱい使ってやりま

しょう。

まずは、「なつかしい可部の写真展」から。昨年大文字祭りにあわせて皆さんから提供してもらった写真を披露します。

10時半からは、今年の大文字祭りに上映して以来、地元の人たちから賞賛をいただき、リクエストの多かった『藤井さんのフィルム』を上映の予定です。

11時からの1時間こそ可部を唄おうアワーです。“可部は～よいとこ、根のた～に霞”知ってますか？可部小唄。この唄最近あまり耳にしないようですが、作詞は司法書士の西田裕二さん。

可部小唄のほかにも可部音頭、可部ばやし囃子、温泉音頭な

どなど……昔可部で流行ったこれらの唄を参加された皆さんと一緒に唄いまくろうという企みです。行事の担当は、建築士でありながらヴァイオリンもやってしまいう加納さん、映像担当の新澤さんは音もキレイにとろうと腕をまくって待機中、可部の女になりきった三木さんは町の中からイベントに協力してくれる人材の発掘にと飛びまわっています。そのうえ踊りもあります。指導は町内で活躍しているしやる西川(呉服屋)さんで、艶やかな姿に見とれることなく時間の許す限り一緒に踊っていい汗かきましょう。

蓄音機 や～イ

今、昔の可部の唄を探しています。町内駆け巡って集まったレコードはSP板(78回転)とEP板(45回転)なんです。EPは何とかなりますが、『可部小唄』のSP板を再生する蓄音機がないんです。

音の担当、新澤さんが古い蓄音機(プレーヤー)を5台も集めて修理や細工をしてみたものの、どれも思うように音を再生できず、思案投げ首といったところ。これができないとイベント担当の加納さんが困るんです。楽譜がないため、再生した音から採譜し、ヴァイオリンで伴奏を……という瑣胆なのです。

皆さんの知人、友人の中に動く蓄音機を持っている人があったら紹介してくれませんか。

そして年頭のイベントを充実したものにしましょう。

ご寄付ありがとう

次の方から寄贈をいただきました。どうもありがとうございました。

井手本さん 金員
新澤さん 金員
古井さん 切手
江角さん (大田川工事事務所)
現金1万円

カラスのスケジュール

カラスの定例会

公民館新築移転のため利用できません。

12月21日(火) 19:00

ひふみ会館で1年の総さんげ懺悔を行います。

1月12日(水) 26日(水)

イベント等

1月 9日(土) 10時～12時
総合福祉センター落成記念イベント



寺らもと 克かつひ彦ひこさん

カラスの紹介(ワ)

せっかくの機会ですので、『可部カラスの会』という名称を提案させていただきます。経緯をお話させていただきます。商工会青年部が開催されます『青少年の意見発表会』で、平成8年、ある女子高生が可部鳥について、カラスは賢い鳥なのだから、可部はもつと頑張ろうという旨の提案をされました。平成8年度のまちづくりワークショップの報告書を検討するとき、まさしくこれだと確信し、提案をさせていただきます。私自身の紹介ですが、仕事は県庁の地域振興部中山間地域対策課というところで、地域づくりの仕事らせていただいております。仕事も趣味も地域作りで、外にも地域の青年団や集会所、出身の江津市の広島江津会等々で合計六つの事務局をさせていただき、家族にあきらめられております。

可部カラスの会

第24巻 2000.1.15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

Tel(Fax)814-0162(寺本)

kabekarasu@ma8.seikyoku.ne.jp(田中)

<http://ha8.seikyoku.ne.jp/home/kabekarasu/>

仕事始めに 大賑わい 公民館のこけらおとし

新装なった可部公民館、そのお披露目セレモニーに『可部カラスの会』も参加しました。もちろん2000年の幕開け、カラスにとっての初仕事です。

1月9日(日)10時からの2時間がカラスの受け持ち時間。この時間をフルに活用して、参加した皆さんと大いに遊びました。

区長さんも参加

このイベントに花を添えてくださったのが安佐北区の区長さん。挨拶のなかで「可部カラスは太田川の流れのようです」といわれましたが、いろんな意味をこめての言葉のように感じられました。そして昨年1年間のカラスの足跡を丹念に見ていただき、音楽の時間には“可部音頭”まで参加者と一緒に唄われたんです。面白かったネ区長さん。



映写会に、可部音頭に集まった人の顔、顔、

いつも盛況「大正の可部」ビデオ

参加者の数は開始当初チラホラの感じでしたが、それでも映写会が始まる頃には用意した椅子席がほぼ満席に近いくらいの盛況となりました。

「大正時代の可部周辺」のビデオが始まるまでに“なつかしい可部のまち写真展”に見入る人たちもたくさん

見受けられました。一昨年の大文字祭で展示したものをそのまま使ったんですが、初めて目にする人も、見たことのある人もそれぞれの思いをもって見ておられたようでした。



唄ったア 踊ったア

さあ、“可部を唄おう”の時間となりました。1時限目は唱歌、2時限目は踊りというスケジュール。まずは歌の時間。可部音頭、可部ばやし、可部小唄、いずれも古いSP盤のレコードからテープへの収録に成功した新沢さんの力作です。

練習するのは“可部音頭”楽器を持つてのリードはテープから採譜をやったのけたヴァイオリンの加納さん。そして唄のリードはカラスのメンバーです。

『ハァ〜 春の夜ぞらに 大文字ソメテェ〜』一節ずつの練習に最初は固めの雰囲気もだんだんほぐれて、大きな声で唄えるようになりました。もちろん区長さんも大きな声で楽しそうでした。全員で通して唄って完璧?になったところで締めくりとしました。

2時限目は踊り、応援は公民館で活動している西川さんをリーダーとする民謡おけさグループ・友愛民謡のきれいどころ総勢15名。一通り舞台の上でエキシションを終えて、今度は手を取っての指導。「あんまり堅うならず楽しんで踊りゃあええじゃない?」の励ましに一生懸命手をかざし、クルリと廻ったり、何とか形ができました。ありがとう、民謡同好会の皆さん。可部に因んだ唄と踊りを習得できて可部カラスはまた一つ賢くなりました。

反省を糧に前進を

今年はこのあにやろうやあ

新年明けましておめでとうございます
心配されていた2000年問題も無事通過し、一安心というところです。

さて、可部カラスの活動も今年ではや5年目を迎え、去年の1年間を振りかえってみますと、自然発生的にまちづくり活動をやっており、もう少し長期の計画をもとに進めていく必要があるのではないかと反省しています。会の発足当事に会員の具体的活動の提案が出ておりました。例えば可部小学校の空き教室に郷土資料がたくさん保存してあり、『われわれでこの資料に説明を加えて、子供にわかりやすいものにしよう』ということもきました。これを是非実施したいと思っています。

今年度の大きなイベントで5月末の大文字祭りに合わせて、(仮称)『これだけは残してほしい可部』写真展を実施する予定にしています。また4月9日(日)には岡山県勝山町にバスを借りて見学する予定にしています。

勝山町は可部の町に似ており、町づくり活動も活発で、各商店がオリジナルの「暖簾」を飾っています。その「暖簾」を見て歩くだけでも楽しいようです。また地元の人との交流も楽しみにしています。

これからも、過去の反省を含めて活動し、前進したいものだと考えています。 《友広》

カラスが翔んだ (情報二題紹介します)

その1

『情緒薫る可部の街で“人情漂う語り部”に逢う』日本ビクターのレポーターは、新澤さんとのインタビューをこのように切り出しています。

ポケットムービー活用レポートの取材にこられた星島さんは、新沢さんの映像の活用方法に目を見張ってしまいました。

「大正時代の可部周辺」のフィルムが見つかったことで先ずビックリ、そして「可部カラスの会」の活動振りのユニークさにビックリ。もちろんレポートにはカラスの会報も、藤井さんのフィルムの静止画像も数コマ紹介されているんです。

その2

昨年の秋、新澤さんと和田木さんが広島市の研修センターで受けたワークショップの講師、「世田谷まちづくりセンター」からも会報に対する礼状と活動に対して励ましの手紙が届きました。

以上のように情報発信のネットワークとして「カラスの会報」の重要性をヒシヒシと感じています。

カラスのスケジュール

カラスの定例会

1月 26日(水)

2月 9日(水) 23日(水)

イベント等

2月27日(日)

仁保公民館まちづくりグループ

午前 カラスの活動報告

午後 まち探検

ふれあいチャンネル「がんばっとるけん」

1月24日～1週間

「可部カラスの会」の活躍ぶりを紹介する15分

寺山公園で1歩前進

「市長の地域懇談会(タウンミーティング)」で私たちの意見に対する回答が寄せられました。

問) 寺山公園に住民の声を反映させる場に参加させてほしい(安佐北区役所)

答) 地域の特性を生かした寺山公園に皆さんの意見等を反映したいので協力下さい

注) ワークショップ等に参加できる道が拓けました。

問) 公民館の備品(特にビデオレコーダー)の貸し出しはできないか

答) 1台しかないものは区内の利用調整を要することを理解してください(市民局)

注) 従来どおり借りることはむづかしい。

カラスの紹介(八)

三木 啓子さん

私の尊敬する医学博士舟木正明先生はたくさんのボランティアをされていますが、「ボランティアは、まず自分が幸せいっぱいであるの幸せがあふれる分を奉仕するもので泣きそうな顔をしてするものではない」といわれます。ということは常に自分自身で輝いていたと願う毎日で、どうでもよい毎日なら幸せにはならないのです。また「プラスのエネルギーを発していたらプラスの人に出会える」とも聞きました。私にとって「可部カラス」はまさに私の楽しみでありプラスのエネルギーの集まりだと思っています。このプラスのエネルギーで少しでもお役にたてれば嬉しいなと思って活動させてもらっています。そしてその活動の仲間から可部のすばらしさをたくさん教えていただいています。勿論、可部大好きです。可部の好きな人、例会にこられませんか。

可部カラスの会

第25号 2000.2.15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
 Tel(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyou.ne.jp(田中)
<http://ha8.seikyou.ne.jp/home/kabekarasu/>

可部をもっと勉強するよ 歴史部会スタート

可部の町探検、写真展、映写会等さまざまな活動が続けていく中もっと可部のすばらしさを知っていききたい、もっと丁寧に学習していきたい。そんな思いが膨らんできていた時、寺山の公園作りに先駆け、上原在住で寺山をこよなく愛する山田さんに寺山を案内していただくことができました。わずか10分で超えられる鞍部は、現在でも上原地区の人たちは近道として使っておられます。たくさん子ども達にとってもこの山は、泥んこになって遊んだ記憶として鮮明に焼き付いていると思いました。

でも、いずれここは削り取られて、すっかり様変わりするのだろうか?と思った時、ここを利用していた人たちのこの山に対する思いを聞いてみたいな、そし

て書きとめておきたいなと思いました。

やっぱり、学集会を始めよう!! 一歩目は寺山から!!

タイミングよく社会福祉協議会のご好意により、総合福祉センターの会議室を利用させていただくことになり発足しました。会は始まったばかりで手探りの段階ですが、テーマを決め、各自が資料を持ち寄り、疑問に感じたこと、もっと詳しく知りたいことなどゆっくりペースで学習しています。そして頭の中でだけでなく歩いて感じ取っていき、その延長線上に可部の町案内のテキストが自然発生的にできれば……と思っています。(田中加代子)

可部にこれを残そうやあ

写真展の方針

「可部に残つとる物で、こりゃあ残したいよのお」を写真にまとめて展示しよう。今年大文字祭りの写真展はこれに決定しました。

可部、三入、大林、亀山で残して「残したいという自分の思い募集します。

“提供してもらった写真を観てなって動きに繋がってほしい” 動する予定です。会員は勿論、を呼びかけます。大勢の参加を



ておきたい物や風景などを写真にしをコメントにして” 般の人からも

共感できれば、それがインパクトとそんな気持ちで2年間のスパンで活町内の写真同好会の皆さんにも参加待ってまあす。

例会定ではこういう話をしたんよ

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---------------------------|
| <p>3 今後の活動準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁保公民館まちづくりグループ受け入れの準備態勢を ・水援隊報告会発表の準備 ・広島建築士会シンポジウムカラスの会生い立ちの記 ・勝山町視察 ・中間集計 三四名 ・「カラスの仕業」の作成 分担して三月末までに作成する | <p>2 小学校地域学習の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可部小、亀山南小で実施 子供たちの眼はキラキラ輝く ・亀山南小6年生 二月十日(木) 地域の人と学校の周囲にサクラの植樹に先駆けて勉強会。 | <p>1 大文字祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国新聞の取材あり ・持参の写真でジャンル別を検討 | <p>4 歴史部会立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古い可部をもっと知りたい」をテーマに勉強を開始 | <p>3 小学校の地域学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可部小3年生 一月二十九日(土) ・亀山南小3年生 二月一日(火) | <p>2 文字祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真展のテーマ 『可部でこりゃあ残したいのお』 ・旧可部に現存する、残しておきたい物、景色等を一般から募集 | <p>1 勝山町への視察 商工会へ呼びかけ</p> |
|---|---|---|---|---|---|---------------------------|

一月二十三日

課外授業は大繁盛

踊った人に逢いたい

可部小3年生

1月29日、可部小学校3年生に「むかしの可部のくらし」を中心に地域づくりの授業を行いました。このほど全員が授業の感想をまとめた文集が届きました。



子供たちの関心は軽便鉄道、番傘、運動会、青い目の人形、明神の舟だまり、そしてカラスの人たちが可部の歴史に詳しいことなど多彩でした。木下美菜子さんは「青い目の人形の前で踊っていた人に逢ってみたい」と書いてくれ、「大きくなったら可部カラスの会に入りたい」と書いた人も…。さらに「可部のまちをきれいにしたい。」「排ガスをなくしたい。」「排ガスをなくしたい。」などの意見や「可部のまちをもっとくわしく教えてほしい。」という意見で文を結んだものがた

くさん見受けられました。

交通はどうか変わったの

亀山南小3年生

2月1日は亀山南小学校3年生の地域づくりの学習でした。テーマは「交通はどのように変わっていったの?」で、最初に、古くから可部は石見、出雲へ通じる街道の要所であり、必要に応じて道路が改良、発達してゆく様子を地図で説明し、続いて三つの川が合流する可部は道路と同じく川も物資運搬のポイントで、明神の船入堀に数多くの舟が集結していたこと、やがて木造の太田川橋がかげられ、軽便鉄道が開設され、横川～可部をバスが走ったこと等々、交通の変遷をわかりやすく話しました。

子供たちは紹介される珍しい写真に「驚きの連続」であり、40年前には自分たちの生活拠点がほとんどが山であったことは、強い印象で受けとめたようです。逆にわれわれがビックリしたのは、太田川橋まで実施検証をした子がいたことです。

イメージ画像に歓声

亀山南小6年生

亀山学区の人たちは「地域にサクラを植えよう」をテーマの一つとして活動してきましたが、2月19日、学校の周囲に植樹の運びとなりました。亀山小のみなさんも参加が決定、2月10日、5～6年生150人が事前に地域の学習をやることになりました。前半は地域の生活の移り変わりが、その時代を反映していることを写真で説明。後半は新澤さんのイメージ画像（透明フィルムにサクラの花を描いて、現在の写真にオーバーラップしたもの）を使って未来の亀山を予測した説明に子供たちは「すごおい」と大歓声で喜んでくれました。すごく楽しい時間でした。



カラスのスケジュール

カラスの定例会 2月23日(水) 3月8日(水) 22日(水)
イベント等

- 2月27日(日) 10:00~15:30
仁保公民館まちづくりグループと交流会
午前 カラスの活動報告
午後 お宝くんを求めて
- 3月12日(日)
水援隊報告会 安佐南区民文化センター
- 3月15日(水)
安佐公民館 高齢者学級
- 3月17日(金) 15:30~17:00
広島建築士会シンポジウムで寸劇披露
- 3月23日(木)
安佐公民館 高齢者学級
- 3月24日(金)
安佐公民館 高齢者学級
- 4月9日(日)
勝山町(岡山県)視察

何でこんな鳥にトリ憑かれたんじやろう。でも後悔なんかありません。第一回目「根の谷川クリーンキャンペーン」参加の呼びかけに躊躇なく申し込んでいました。可部を振り返ることなく過(こ)して五十余年。「こりやあ何かせんにやあいけん」。それで定例会に行くと、ええ大人が楽しげに話をしよるんです。それからというものの病み付きです。

最初の仕事は「なつかしい可部のまち写真展」。続く「会報の発行」はパソコンとの格闘でした。でも「習うより慣れる」で、何とか操作も理解できた今、やめるわけには参りません。

最近小学校の課外授業にも携わるようになって、子供たちの目の輝きを見ると、この子たちが後を継いでくれるぞ。そんな気持ちで接しています。

カラスには、まだやること一杯あり、やり遂げるためにボケるわけにやあいかんけえ、まだまだ頑張るよ。

カラスの紹介(九)

和田木 薫さん

可部カラスの会

第26号 2000.3.20

主役は子供たち 亀山南で植樹祭

亀山南学区で小・中学校の児童・生徒を主体にして町全体で取り組まれたイベントが行われました。サクラの苗315本を学校の側面に植えたんです。学区自治会の皆さんは事あるごとに亀山南小学校の授業に積極的に参加して子供達との交流を深められています。自分たちの住む町に対する子供の気持ち「花一杯のまち、水のきれいな町に…」を実現することを一つの目標として活動を継続してこられました。そして地道な努力の積み上げが大きな花となって開いたのです。

2月19日(日) 亀山中学校・亀山南小学校生徒・児童全員が参加、地元の人合わせて1500人が集まったページェントの始まりです。自治会連合会の平盛さん始め地域ボランティアのメンバーが勢ぞろいする中、子供達はグループごとに水遣りのペットボトル



を持って集合です。

自治会の平盛さんは「21世紀はみんなの時代、住民主体のまちづくりを目指したい」とあいさつされ、「この苗が根付くまで大人が一生懸命守ってやりたい」とも言われました。また河戸はかつて献上柿でも有名な所であり、ふるさとの行事を再現したいと「柿剥き歌」に振り付けした踊りも披露されました。最後に亀山中学校生徒会代表緒方敏也君は、閉会式の中で「私達は今日夢を植えました。……世紀をこえてサクラの木のように花を咲かせることでしょ。夢という花を」と結んでくれました。

子供達との交流を心から願って目標をクリアされた地元町内会の皆さんの暖かさが感じられました。

カラスがうまれて育った話 建築士会で披露

カラスが生まれて大きくなるまでを建築士会の皆さんに見てもらいました。3月17日、広島市八丁堀シャングレで広島県建築士会が立ち上げた、「広島県地域貢献活動センター」発足セレモニーで「まちづくりとほ」をテーマに、スライド、ビデオを交えて約1時間の寸劇を披露したんです。

個性的な役者がコミカルな広島弁で演じるシーンに建築士さんたちの中にも笑いの渦が起きました。寸劇を終えて交流会で「まちづくり言うても、なかなか難しいことのように思うとったが、目からウロコが取れたような気がしました」と感想を述べられる方も……。カラスも愉快な一日を過ごすことができました。

定例会じゃあこういう話をしたんよ

二月二三日

- ・ホームページの企画案を提示 検討開始
- ・カラスの仕業九九年版の原稿作成

- ・原稿作成依頼は和田木さんがみんなに依頼する。二千年版も続けて依頼する

- ・建築士会シンポジウム(三月一七日)

- ・カラスの生い立ち寸劇と交流会に参加

- ・三月八日の定例会でリハーサル実施

- ・水援隊報告会の発表(三月一二日)

- ・担当 新澤、和田木、寺本、上森、田中

- ・安佐町ことぶき講座

- ・各集会所を巡回して講座開催

- ・まちづくり先進地学習(岡山県勝山町)

- ・可部南ふれあいフェスタ(四月十六日)

- ・可部カラスにスペースの提供あり

- ・県立生涯学習センターへの展示

- ・五月九日～二十日 ロビーへ展示する

- ・「残してほしい可部」写真展

- ・大文字祭等ソフトの写真大歓迎

- ・仁保島村わくわく発見隊(二月二七日)

- ・可部の町案内とワークショップ

三月八日

- ・郷土資料館の希望に対して市長から回答

- ・三木さんのFAX送信の成果

- ・まちづくり先進地学習参加者に保険をかける

- ・可部南ふれあいフェスタで写真展

- ・約二〇〇枚を掲示

- ・県立生涯学習センターへの展示

- ・先方の担当者と詳細を打ち合わせること

- ・作ってほしい「可部の看板」

- ・可部駅等の掲示を働きかけよう

町探検とワークショップに 仁保島村

わくわく発見隊を迎えて

何とも寒い日でした。2月27日、仁保公民館が主催する「仁保島村わくわく発見隊（構成メンバーは80歳から小学生までの幅広い12名）」を迎えた可部は小雪のまじる天候でした。町案内役は先日発足した“歴史部会”の面々で、皮切りは上市の稲荷神社、「かつてこの神社に並んで牛市がありまして……」と田中さん。その牛市まで牛が歩いたと言われる道を通って旭鳳酒造へ。「可部の願船坊にやあ、聴聞ががんすかがんせんか…、がんす言葉でお馴染み、願船坊です」。続いて長井宅から藤井宅へ。「大正末期から昭和初期のフィルムを提供していただいたんです」とは陰の声。

メンバーは寒さもなんのその、路地裏を



通って折目へ出ます。ここでは“敵の進撃を減速させる折目の効用”と塚本さん宅前で“山繭産業の繁栄が可部町に貢献したこと”などの説明を終えて、路地裏を抜け、中川醤油さんの店を訪問、更に下って舟入堀跡にある“鉄灯籠”と“トイレの絵タイル”を見て折り返し、国道54号線へ。

広銀可部支店の前で“全国初の試み、住民がデザインしたマンホールの蓋”をじっくりと観察して午前スケジュールを終了。

日曜日にもかかわらず、店をあけて工程ごとに案内してくださった旭鳳酒造さんと中川醤油さんどうもありがとう。

午後の作業はワークショップ。午前中の町探検で見つけた“お宝くんと困ったくん”をシールに書き込みます。それをジャンル分けした後グループ化とタイトルを書き込む作業です。

最初は戸惑い気味だった“わくわく発見隊”の皆さんも、少し慣れると和気あいあいのうちに作業が進み、レイアウトに取り組む人、絵を書く人ととても楽しそうでした。



2時間程度

の時間ではとてもきちんとしたワークショップとは行かなかったと思われかもしれませんが、どうやら参加された皆さんもやり方を覚えていただいたような感じです。最後に参加者の自己紹介や質疑応答を行って全日程を終えました。

カラスのスケジュール

カラスの定例会

3月 22日(水)
4月12日(水) 26日(水)

カラスのイベント等

3月23日(木)
午前 鈴張集会所 午後 久地南集会所
ことぶき講座に出演
あなたにも私にもできるまちづくり
3月24日(金)
午後 安佐公民館
ことぶき講座に出演
あなたにも私にもできるまちづくり
4月9日(日)
先進地学習 岡山県真庭郡 勝山町
4月16日(日)
可部南ふれあいフェスタ

カラスの紹介

新 しんざわたかしげ
澤 孝 重さん

可部カラスの会の発足当初から参加しておりますが、現在のように多くの人々から温かい理解と応援がいただけるようになるとは想像もしませんでした。会を発足するときの私の役割は、組織をつくること、会則規約をつくることでしたが、いまだにそれを文章化していません。はじめに会則ありきではなく、活動しながら考えてみようと思ったからです。いまでは、会の性格や運営をわかり易く表現した『カラスのたくらみ』くらいはすぐにでも作れます。

会を結成してから五年目になりますが、参加している会員一人一人が素晴らしい個性と人格、それに専門分野の持ち主ばかりです。会員から学ばせていただける嬉しさ楽しさはまた格別で、わが人生最良の勉強の場だと思っております。まちづくりの前にまず自分の人間づくりの場として、これからも可部カラスの会に楽しく参加させて頂きたいと願っています

安佐公民館 ことぶき講座に学んだ

3月は安佐公民館と学区老人クラブ主催の『ことぶき講座』に招かれました。15日午前は久地集会所、午後は小河内コミュニティセンターへ。23日午前は鈴張集会所、午後は久地南集会所へ、24日午後は安佐公民館へと忙しい日程でしたが、各地区の皆さんと意見を交換することができ、可部を外から見ることを教えられ、私達が勉強させてもらった楽しい講座でした。会場それぞれの概要は次のとおりです。

昨年猛威を振るった台風の傷跡が残る河川のほとりを車で移動して久地の集会所へ。20人余りの人がお待ちでした。今回は絵葉書の投影機[?]を使って映像以外に写真もいっぱい見てもらう予定だったんですが、初めてのことで写真を欲張りすぎて皆さんと話す時間がなくなってしまいました。ゴメンなさい久地の皆さん。

熱心に聞き入ることぶき講座の皆さん



昭和20年代まで燃料の主流が電気に変わるまでは割木^{わりき}（太い松の木を30cm位に切り、割って束ねたもの）は市内の家庭にとっては必需品でした。昭和16年久地で割木を積み上げてある風景を撮影した写真を皆さんに紹介したところ、「私もこの割木を小浜から舟に積みこんだ記憶がある」「宇賀でも割木を作ったよ」という返事がありました。『浜』の付く地名は船着場であることもハッキリしました。

また鈴張では1円玉を貰って可部へ行き、飴玉2個・ウドン1杯の大散財をした話、可部とおなじ風景は鈴張にもあったと言う人など、大変参考になり、私達が皆さんから学んだことが多かったと感じています。

最後に代表の方々が「幕の内峠が可部と鈴張の間に文化の差をつけた」「可部カラスの人たちは心の町づくりをしてくれる」と挨拶されたのが印象的でした。安佐町の皆さんありがとう。色々勉強になりました。

藤井、深田、桐原さん 三人は可部小の同級生

大正時代のフィルムの中で「青い目の人形」を踊った深田さんの実家から電話がありました。「古い写真が見つかった」とのこと。早速伺ってみると明治39年3月20日に撮影した可部小学校(当時は高宮尋常小学校)児童の写真です。裏の記録を見てビックリ。映写された藤井重一さん、踊りを踊った深田さんと桐原さんの父親の名前が見つかって、深田さんもビ

ックリ。早速写真を拝借してパソコンでコピーしました。これでメンバーの樋野村さんが事あるごとに提唱する「写真の裏に記録を残そう」というテーマが目当たりで実証とれました。今からでも記録を残しておきましょう。

可部カラスが生まれるきっかけになったまちづくりワークショップの第一回から参加させて頂いています。私は可部に住んではいませんが、これが縁で可部カラスに入らせて頂いています。

思い出すと、まちづくりワークショップでは参加者全員どうしていいかわからず、何かしなければと思い第一回のワークショップで司会をさせて頂きました。

当時参加者全員バラバラで、どちらかという後ろむきの感じがしていましたが、今では可部カラスの活動を通じてメンバーは「何ともまあ前向きな考え方よ」と感動し、良い刺激をうけて活力を与えていただいております。

可部に住んでおられる方もそうでない方も気楽に参加してみられるのも面白いと思います。

カラスの紹介(十一)

木原 真司さん

カラスのスケジュール

- カラスの定例会
- 4月 26日(水)
 - 5月10日(水) 24日(水)
- イベント等
- 5月9日(火)～5月20日(土)
 - 県立生涯学習センター
 - 『可部カラスの会』の活動を展示
 - 5月23日(火) 13時半から
 - 可部グリーンライフ(行森)
 - 「大正末期の可部周辺」の映写会
 - 5月27日(土) 9:00～21:00
 - 5月28日(日) 9:00～16:00
 - 「残してほしい可部」写真展

可部カラスの会

第28号 2000.5.15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

Tel(Fax)814-0162(寺本)

kabekarasu@ma8.seikyuu.ne.jp(田中)

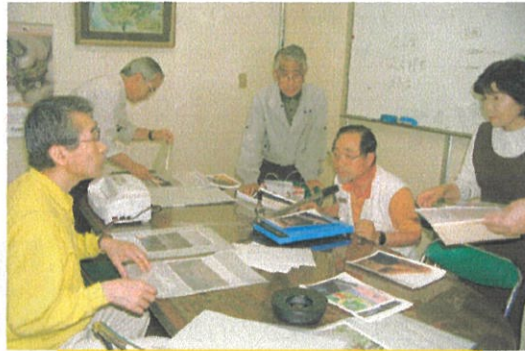
<http://ha8.seikyuu.ne.jp/home/kabekarasu/>

可部の町は日々変わって行きますが、こうした変化をどのように受けとめて行けばいいのか、そうした模索の中から地域の人たちに呼びかけて『残してほしい可部』と銘打って写真の募集をしたところ、約300点近い応募がありました。この写真を大文字祭にあわせて展示する計画を進めています。

今年は『残してほしい可部』写真展です

写真展の第二弾として展示するのは『残してほしい可部』です。『残してほしい』ものといってもその種類は建物(ハード)や、行事・祭って考えられます。そして私利も力も持ち合わせておりに呼びかけてみたいと考えたら寄せられた写真は300点近

5月14日(日)写真展の準備は改めて皆さんのご協力に胸不安を持ちつつの呼びかけに建物など色々な写真が寄せられておいた写真に整理番号をつ



1枚ずつ処理しながらも入念に打合せ

3版のファイルにラミネートして1枚が出来上がりです。

約5時間かかって大方の処理を終わりましたが、この企画に大量の写真を提供してくださった岡田さんは「カラスのねらいがある程度理解できた。もう少し時間をかけて集めてみたい」と力強い声援をいただきました。そうなんです。この企画は1年限りでなく、2~3年かけて、より多くの人たちから情報をいただきたいと思っています。

写真展は5月27日(土)午前10時から午後9時と28日(日)午前9時から午後3時まで、可部学区集会所の1階で行います。

私達の写真展も今年で3回目を迎えます。第一回目から町の皆さん方から多くのご声援をいただけてきました。今回の写真展を見て、町の人が何らかの思いを持っていただけるものがあれば……と願っています。

定例会じゃあこういうような話をしたんよ

四月二十六日(水)

可部南ふれあいフェスタに参加して

写真展には「思いを持って」再度訪れた人が多く、若い人が時間をかけて見ていた

もっと多方面にわたり展示して行きたい

可部南の皆さんのパワーはすばらしい

歴史部会

高松山に関する学習を実施中

民具の活用

折葉さんから民具提供の連絡を受けた

可部公民館まつり

今年も実施されるので写真展をやりたい

県立生涯学習センター展示

五月七日 展示 二十日 片付け

グリーンライフのビデオ映写会 講師四名予定

手伝える人は応援を。

五月十日(水)

「残してほしい可部」写真展について

ポスター 加納さんが手配済、六枚作成予定

チラシ 可部学区配布済み

可部南学区回覧未済

パネルの用意は公民館に依頼、四〇枚以上

写真の収集状況 二六〇枚程度

屋台を出店

アンケートの用意、文面は新沢さんが作成

絵葉書の販売 三枚で二百円

カラスの活動PRビデオ用意する

いけばな 田中さんが用意する

幸田画伯の絵を借用と展示する 新沢さん

写真の整理と準備

一四日(日)一三時 友鉄ランドに集合

折葉さん宅から お宝くを掘り出し

4月26日、カラスの定例会で「三入の折葉さん宅に農機具を整理するような話があるで」という話が舞い込んできました。29日(木)折葉新沢夫妻、田中さん。三入の土居えるうちで、規模の大きな農家でいろいろ話を伺って農機具を見れに使うた駕籠もあったんですが、折葉さんの説明に残念がる二人も箕(手回しで風を送って穀物の質った木の桶と田植の杵(苗を等間た。



さん宅にお伺いしたのは友広さんと橋付近で、堀越しに優雅な茶室が見あったことが伺えます。

せてもらうことに。「むかし興入もう整理してしまいました」という気を取り直してお宝捜し。まずは唐を選別する道具)、穀物の運版に使隔に植える道具)等を掘り当てまし

道具をトラックに積み込んでひと息ついたところで、『使わんものはゴミじゃけえ捨ててしまうご時世、ものを大切に作る心が風化した現象ですかのう』と新沢さんのつぶやきが聞こえました。この道具は可部小学校に保管させてもらす予定です。

母の思いを受け継いで 蘇る”花のゾーン”

上市の裏路地から東原へ通じる橋の袂(カラスのお宝ゾーン)は、昨年夏の洪水以降、花のお世話をしていた中村さん、藤原さんともに体調不良で面倒が見られなくなり花畑は荒れたままでしたが、花を愛する母の思いを受け継いで、再び花を蘇らせようとする両家族の行動に、近所の花を愛する人々が力をあわせて“花のゾーン”の雑草を抜き、ゴミをとつてきれいに整地が終わりました。



「今日は“母の日”じゃけえ花を植えてみたんよ」とは中村さん。「お〜イ、カラスの連中は見に来てくれえよ」とは元老の深川さんなどなどみんな町を愛する人たちが楽しそうに作業を進めています。

カラスのスケジュール

カラスの定例会	
5月	24日(水)
6月14日(水)	28日(水)
イベント等	
5月9日(火)~20日(土)	県立生涯学習センター
	「可部カラスの会」の活動を写真等で展示
5月23日(火)	13時30分~
	「大正末期の可部」映写会
	行森グリーンライフ
5月27日(土)~28日(日)	
	「残してほしい可部」写真展
	可部学区集会所
6月11日(日)	13時30分~
	水援隊説明会 安佐南区民文化センター
6月18日(日)	
	文教女子大学合同発表会
	「残してほしい可部」写真展

私はカラスの会スタート時から参加して、自分の都合のよいときだけ参加するという大変困ったカラスですが、先月視察に勝山町へ行くけえ、気が向いたら来いや」という声がかかり久しぶりに参加させていただきました。そして我々可部の町にそっくりの町で、一つ思い切り感動したことを紹介します。それは商店街の道路に全くゴミがおちていないのです。ゴミ箱もない。何故か!と思いい住民の方に尋ねたところ「そりやあ当りまえよね。家の前の道路は自分の庭先なんよ」ということで、この町では昔からそれぞれの家の前は自分で管理する(行政には頼まない)「風土が根付いておられる」ということで費用も設備もいらない。こんな小さな心が一つで自分が生き生きし、人も感動させるまちづくりができるんじゃないかと、力まらず楽しく長続きのする小さな事を何か探して見ます。そしてこれからも時々可部カラスの会に参加してみよっと。

カラスの紹介(一)

かみもと ゆうじ
神 本勇治さん

可部カラスの会

第29号 2000.6.15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

Tel(Fax)814-0162(寺本)

kabekarasu@ma8.seikyou.ne.jp(田中)

<http://ha8.seikyou.ne.jp/home/kabekarasu/>

雨にも負けず 写真展

今年もやりました5月27日～28日、「大文字祭」にあわせた写真展。今年の出しものはご案内のとおり『残してほしい可部』、1日目はあいにくの雨でしたが、それでもチビッコのお客さんや、可部小学校PTAの代表やら、ささやかながらも賑やかに（でもホンネはチョッピリ淋しかったです）、2日目は晴天に恵まれて、開始時間前から入場する人もあって大変な賑わいでした。お客さんの中には昨年までの「なつかしい可部」をイメージしてこられた方もあったようでしたが、私達のねらいを聞いて「なるほど、面白いね」とか「いつもは見見過ごして通るのに、ええところが余計残つとるもんじゃねえ」などの感想が聞かれました。



今回の写真展では、集まった作品をジャンル別に区分して展示するとともに、自分の『お気に入り』写真の番号をアンケート欄に任意の数だけ記入してもらいました。

ジャンル	出品	得点
花のある風景	21	6
町並み路地	20	60
根の谷川と橋	12	15
まちかどアラカルト	21	45
神社仏閣	32	24
あるがままの可部	43	192
うだつや格子の家	145	186

左の表はジャンル別写真の数とお客さんが記入した点数です。いささか乱暴な切り口ですが、これでも少し見えてくると思います。一つは『あるがままの可部』。ここは人気が集中しました。福王寺中腹から撮った「初日の出」、河戸駅付近の「可部線」、大和重工付近の「千代の松」、「南原川合流点」等々目白押しです。もう一つ『うだつや格子の家』では出品点数が圧倒的でした。アンケート用紙の中には“うだつの写真は全部〇”と記入されたものがあるように、素晴らしく、いずれも甲乙つけ難いと言う感

じでした。定例会の“写真展の総括”では次のような意見がありました。

- ・“懐かしい可部”を期待した人もあったが、写真展のねらいは理解してもらった。
- ・集まった写真を“四季を通じて撮る”ことでもっと面白くなる
- ・継続することでもっと写真は集まる。多くの人たちに参画する気持ちが湧いてくる。

なお、この企画は今後2～3年継続して行う予定にしています。皆さんも写真を撮ってみたいかがですか。

定例会じゃあこういうような話をしたんよ

五月二四日

グリーンライフ集会所の映写会

参加者六六名で会場は立錫の余地なし
一生懸命聞いてくださることが伝わる
「割木を作る会社」があったとの情報も。
寺山公園

七月一日付の「区報あさきた」でワーク
ショップに参加呼びかけの予定。

カラスは地域の人たちに溶け込もう。
「太田川新聞」に写真展の記事が載る。

今後情報交換してみたい。
まちづくり横丁

今年もアステールプラザで実施。総合企
画は『屋根裏の会』を予定。

根の谷川クリーンキャンペーン
下町屋町内会と共催の予定、井手本さん

に実施予定目を確認する。
可部小学校PTC『歴史ウォークラリー』

カラスに協力要請。サポートの予定
六月一四日。

文教女子大学合同発表会
準備 一七日午後四時集合

本番 一八日午前一〇時から
可部小学校PTC歴史ウォークラリー

二七日午後七時、可部小学校で打合せ
実施は七月一日（土）午前九時

「残してほしい可部」写真展の反省
「懐かしい可部」を期待した人もあった

が、我々の意図を理解してもらった。
年間通してとってみれば面白い。

多面的に撮って多くの人の参画を…。

古い可部を見つめる 眼・目

グリーンライフ集会所の活動から

5月23日、グリーンライフ集会所は超満員の盛況でした。集まったのは「行森長生会」、「グリーンライフ団地老人会」そして「勝木ハイツ老人クラブ」の3団体の会員です。「勝木ハイツ」は最近結成されたばかりですが、他の2団体はいつも一緒に活動を続けているクラブ。もちろん『可部カラスの会』が提供する“大正末期の可部周辺”ビデオを見に来られたんです。



会場は映写の準備を始めるころから参加者の数が徐々に増え、開始時刻にはギッシリ満員の状態。正座することが難しい方には少々気の毒でしたが、カラスにとって“やり甲斐”を感じたことでした。

カラスの出席者は映写と案内役の新澤夫妻、解説を担当する樋野村さん、司会担当の和田木さん、研修を兼ねて山口さんの5名です。

来場の皆さんは新しい団地ができて定住された方が多いと伺っていたので、“昔の可部を理解していただけるか”という懸念（失礼）は写し出される画面を食い入るように見つめる皆さんの眼を見て吹き飛んでしまいました。映画の途中で歓声があつたとき聞かれました。映画が終わると地域の古い写真とカラスの活動を紹介する時間、安佐町と同様“割木”をはじめいろいろな写真を紹介しました。終わって対話の時間ですが、やはりカラスのネーミングやパワーが何処から湧いてくるのかに興味があったようでした。対話を進めて行く中で、私達の考え方はおぼろげながら理解されたようでした。

対話の中で「親族が出資してできた“割木を作る会社”がありましたでえ、資料はまだ残つるとる筈ですがのう」と言う話、カラスにとっては有難い情報でした。

予定の時間をオーバーしての対話、痛む足をこらえて付き合ってくくださった皆さんに感謝しつつ映写会を終えました。企画してくださったグリーンライフ老人会の三原さんの話によれば、当日の参加者数は66名とか、ありがとう。皆さんから元気を貰いました。

可部小 「歴史ウォークラリー」をサポート

「可部小学校6年生PTCで“歴史ウォークラリー”をやりたいんです。」という電話が入ったのが、5月25日の夜でした。早速カラスの歴史部会メンバーに連絡。写真展での初会合に続き30日にはチェックポイントの紹介、8日にははいよいよポイントの現地検証を行いました。

上市の牛市跡に集合したPとTは続いて旭鳳酒造へ。昔の商家の構えを目の当たりにしてビックリ。永井家から西村醤油前へ、ここから間口がせまく、奥行き長い商家の建物を実感しつつ路地裏へ。

「ウワァ、可部にこういう所があるんねえ、知らなかったあ」参加したお母さんのつぶやきに、“にんまり”しながら案内を続けました。

ウォークラリーは7月1日（土）に行われますが、総勢240名を10名単位のグループに分ける構想です。カラスもいくつかのポイントに立って案内をしますが、“グループ同士がバッティングしないよう、何とか成功させたい”そんな気持ちで頑張ります。



カラスのスケジュール

カラスの定例会

6月 28日（水）

7月11日（水） 25日（水）

イベント等

可部小学校『歴史ウォークラリー』

6月27日 打合せ 可部小

7月 1日（土）9時スタート

可部カラスの会

第30号 2000.7.15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
 Tel(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyoku.ne.jp(田中)
<http://ha8.seikyoku.ne.jp/home/kabekarasu/>

みんな頑張った「歴史ウォークラリー」

7月1日(土)午前9時、可部小学校体育館に集合した6年生の約130名とその保護者の前にカラスのメンバーも勢ぞろい。6年生PTCが企画する「歴史ウォークラリー」の開幕です。

スタートの組編成を終え
 ラスで～す」元気のよいち
 からセレモニーは始まりま
 オ」のダイジェスト版、サ
 C歴史ウォークラリー」と
 すいように、小学校の運動
 に絞りました。運動会“竹
 戻る子どもの姿にあちこち
 セレモニー終了後、ポイ
 す。ポイントごとの案内役
 樋野村さん、3コース山名さんと上森さん、4コース友近さんと和田木さん、5コース山口さんと梶川さん、6コース田中加代子さんです。さて、ここからはそれぞれのポイントに貼りついたため全体の動きは把握できませんでしたので、いきなりエンディングに移ります。



て、「おはようございま～す。可部カ
 びっこ連中を前に、カラスの自己紹介
 す。続いて「大正末期の可部周辺ビデ
 ブタイトルには「可部小学校6年PT
 あります。内容は子ども達にわかりや
 会風景と“青い目の人形を迎へて”
 馬競争”では、ムチを忘れて取りに
 から笑い声が聞こえてきます。
 ントへ向けて各グループもスタートで
 は、1コース新澤慶子さん、2コース

親も子も 口を揃えて”すっごおい体験”

「歴史ウォークラリー」に参加した親も子も、素晴らしい体験をした様子でした。先ず、75年前の可部の様子や子ども達の生き生きとした表情に出会ったこと。そして現在まで受け継がれてきた街の佇まい。更に最も新しい形で作られた“マンホール”もう一つ、訪れた人たちを気持ちよく迎えてくれた店の方々です。「こんなマンホールがあるのは知らなかったよ」という子ども「可部でそんな酒が造られるとは知らなかったあ早速お父さんに……」とは同行のお母さん。そして何よりも貴重な体験をしたのは、ポイントに向かう途中、脱輪した自動車をみんなでセーブしたことでしょう。到着が遅れて気遣うところへ子ども達が意気揚々とやってきました。「今ねえ、自動車が溝へ落ちとったけえみんなで上げたんよ。」自分達の小さな力が役に立ってみんなの目はキラキラ輝いていました。体育館へ到着したこの子達は大きな拍手で迎えられました。

暑かったねえ、可部小学校PTCの皆さん。カラスの皆さん、またやろうねえ。

定例会じゃあこういうような話しをしたんよ

六月二七日

可部小「歴史ウォークラリー」案内担当

1コース 新澤 慶子さん

2コース 樋野村さん

3コース 山名、上森さん

4コース 友近、和田木さん

5コース 山口、梶川さん

6コース 田中 加代子さん

三入中「地域を知る学習」出演の担当

カラスの受け持ちは

6コース“町民施設”でカラスの活動

を紹介

新澤、樋野村、和田木さん

可部小「保存資料」の整備を始めよう

資料整備 山口さん

一覧表作成 和田木さん

チンチロビッツ(明神さん)

樋野村さんちの広場でカフェテラスを

具体的には一二日の定例会で

七月二二日

チンチロビッツ

ろうそくの薄明りの下でコーヒーや、

ビールの味を満喫しよう

個別の担当は省略

よがんす祭 八月二六日(土)

「残してほしい可部」写真展

パネルは文教に依頼、大文字の写真は

商工会に予約すること

「ひろしま町づくりデザイン賞への応募」

詳細は代表が「デザイン室へ聞いて

応募は事務局長が行う

地域とのつながりを…奮闘する三入中学校

“三入中学校で出前授業をやるそうなの、新澤さん、和田木さんちよいと行ってくれんかあ”代表から直接名指しのメールが入ってきたのが6月20日のことでした。早速飛んでゆきました。先生の話聞いてみると、おもしろそうな企画なんです。

三入中学校では従来から“地域とのつながりを大切に”を学習課題の一つとして取り上げて実践しており、カラスも“ふれあいフェスタ”を通して3年前からかかわっているところです。

今回のテーマは『地域を知ろう』で、一学年の全員が校外学習形式と講演会形式で6コースに分けて学習し、新聞で発表するという内容です。

校外学習としては①山、②川、④工場・会社、⑤交通の各コース。講演会として③歴史、⑥町民施設コースです。カラスは⑥コースの一端を担当し。“カラスが主として公民館を活用して、何を目指し、どんな活動をしているか”を紹介する役目です。ちなみに歴史コースは井手本さんの担当です。

7月3日は事前学習の日、コース別に6グループに分かれ、明日に備えての準備。6コースでは町民施設の名称と役割をわかる範囲で調べました。「可部カラスの会」の知名度は？…36名中2名でしたが、組編成の時点では人気は急カーブで上昇、ジャンケンで決められました。

いよいよ7月4日、この日は樋野村さんもメンバーに加わってくれました。新聞を作るとあって“カラスの会報”を配布、安佐北区の呼びかけに応じて立ち上がったグループが、独立して「可部カラスの会」と名づけたこと、公民館を利用して活動するに至った経緯、街の人たちに活動を認知されるまでの説明をし、地域全体としての取り組み、「根の谷川クリーン活動」を流域全体で行う夢を語るなど、生徒たちの質問も含めて持ち時間をフルに使って話し合いました。15日には作成した新聞で発表会です。できればちよいと参加してみたいと思っています。



4日の学習、熱心に聞き入る生徒たち

可部小 資料室の整備 山口さんが開始

余りにも行事が多くて、伸び伸びになっていた「可部小学校資料室の整備」、いよいよ取りかかることになりました。

主として農家で古くから使用されていた農具を「捨てるに忍びない」、「保存して昔の人がどのように使っていたのか子ども達に教えてやりたい」こんな気持ちから可部の古い資料が少しずつ集められました。そしてとりあえず、保管場所として可部小学校の空き教室が提供されてきましたが、残念ながら“置いたまま”の状況から脱皮することができませんでしたが、このたびカラスの手で資料の整備をはじめました。担当は山口さん、先日ご主人とペアで資料室へ。メモをとろうとして先ず戸惑ったのが“名称”でした。同じ道具でも地域によって呼び名が異なるんです。とりあえず“名称”をきちんとし、 “使い方” “年代” “寄贈者” を記入した解説をつけることに。更に一覧表も作成することとなりました。

カラスのスケジュール

カラスの定例会

7月 26日 (水)

8月 9日 (水) 23日 (水)

イベント等

8月20日 (日)

シロガヤツリの成果測定の水質検査
東広島市八本松

8月26日 (土)

よがんす祭 コカコーラ広場

「残してほしい可部」写真展

寺山W・Sに参加を

7月1日付の「区報 あさきた」に“講演づくりにあなたのアイデアを”と題して寺山公園のワークショップ参加の呼びかけが載っています。区民の中に寺山公園に関心を持つ人がどれだけあるか不明ですが、「可部カラスの会」としてできる限り住民の意見を集約した公園作りに努力したいものです。

寺山公園最初の行動として「応募ハガキ」を出しましょう。あて先は「まちづくり推進課」、7月28日必着となっています。